

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: <http://www.elv.or.jp/>

自動車リサイクル士制度認定講習会 開催

平成26年3月13日(木)・14日(金)の2日間にわたり、LMJ東京研修センター(東京都文京区)にて、自動車リサイクル士制度認定講習会が開催されました。前回までは、自動車リサイクル管理士のみの講習会を1日で開催していましたが、今回からは、以下のとおり、自動車リサイクル士の3種の資格すべてにおける講習会として、2日間の日程で行われました。

【資格ごとの開催日程】

資格の種類	開催日時	
	1日目	2日目
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	3月13日(木) 10:00~17:05	なし
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破碎工程)	3月13日(木) 10:00~16:15	3月14日(金) 9:30~13:25
自動車リサイクル管理士	3月13日(木) 10:00~16:15	3月14日(金) 9:30~17:15

初日の実務士初級講習会は、「引取・フロン類回収工程」に携わる方が参加されて、自動車リサイクルの概要や電子マネーシステムについて講義があり、よくある間違い事例として「車台番号の確認ミスで他県の車両が車検が受けられないケースもあった」と報告がありました。また、2日目の実務士上級講習会では、現場でのエアバック展開や安全作業について講義があり、管理士の講習会では、自動車メーカーの取り組みや責任者としてのマネジメントもあり、後工程のことを考えて仕事をするのが大事であると講義がありました。



[↑写真:講師の方々]

(次ページに続く)→

目次

巻頭言 1
トピックス1 自動車リサイクル士 制度認定講習会 1~2
トピックス2 国際オートアフター マーケット 2
トピックス3 回収高度化事業 2
会員活動報告 3
鉄スクラップ最新情報 4
行事予定・お知らせ 5
編集後記 5

巻頭言

今年こそは来て欲しくないと
思っていた花粉の季節。やっぱり
間違いなく来るんですね。もう
30年以上も、この花粉との戦いを
毎年続けていて、今年こそは
花粉症になるまいと思いつつ、
何の手立てもしないで、ただただ
泣きながらこの季節が通り過ぎて
行くのを待っているのが現実です。
先日3月11日は、あの東日本
大震災から丸3年をむかえた日
でした。私にとっても大変恐ろしい
出来事でしたが、日一日とその
感情が薄れてきているのも事実
です。まだ本当に多くの人々が
苦難の中で生活している状況で、
来て欲しくはないけれど、今後も
いつか間違いなくやってくるで
あろう大災害に対しては、日々の
心がけを怠らないようにすべきと
改めて心に誓わされた一日でした。

(広報部会 副部会長 田村 幸男)



[↑写真：受講者の方々]

参加人数は、受講者48名、行政9名、オブザーバー5名、講師10名、関係者22名、合計94名でした。

受講者の方々には、講義中にメモを取るなど真剣な様子で、試験にも最後まで一生懸命取り組まれました。また、今回は全国のブロックそれぞれからインストラクターも講習会に参加し、1日目の18時から意見交換が行われ、各ブロックでの問題や講師について意見が出ました。一部のインストラクターからは、役割をきちんと決めることや運用面について話がありました。

私も、リサイクル技術部会に参加し、講習会にも参加していますが、今回のテキスト1巻、2巻は非常に良いもので新人教育にも活用出来ます。自動車リサイクル士の資格を取得することで安全な作業やリサイクル法を遵守し、これからの10年後にも自動車リサイクル士の講習会が継続されることで改めて優良事業所や知見を有する資格になるのではないのでしょうか。事務局、ブロック長、インストラクターだけでなく、みんなで協力していくことが必要であります。よろしくお願い申し上げます。
(リサイクル技術部会 伊地知 志郎)

オートアフターマーケットへ出展



[↑写真：日本ELVリサイクル機構のブース]

平成26年3月12日(水)～14日(金)、東京ビッグサイト(東京都江東区)にて、「第12回国際オートアフターマーケット」が開催され、日本ELVリサイクル機構もブースを出展しました。

ブースでは、展開したエアバックや本年度の回収高度化事業で回収したコンピューター基板・ネオジム磁石の展示を行いました。ネオジム磁石を取り外す映像に興味を持って立ち止まって見てくださる方もいました。

他には、リビルトメーカーも参加しており、中でも今回はトラックのターボのリビルトもあり、その品質向上には目を見張るものがありました。

回収高度化事業 終了

1. 貴金属等の回収事業(コンピューター基板回収)		
参加数	分類	回収実績
37団体260事業所	グループA	9,673個(1,416kg)
	グループB	19,952個(3,814kg)
	グループC	21,600個(2,321kg)
2. ネオジム磁石の回収事業(ネオジム磁石回収)		
参加数	回収実績	
26団体71事業所	222台分(300kg)	

平成25年度回収高度化事業が3月31日(月)の環境省への成果報告書の提出をもって終了しました。本事業へご参加くださった会員の皆様、ご協力くださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

本事業における参加数・回収実績は上図のとおりです。どちらの事業も皆様のおかげで、回収目標値を達成することができました。

事業結果の詳細につきましては、後日あらためてご報告させていただきます。

会員活動報告

第3回東北ブロック会議 開催



[↑写真：参加された河村代表]



[↑写真：会議の様子]

さる2月27日に、仙台にて、平成25年度第3回東北ブロック会議を開催しました。当日は来賓として、自動車再資源化機構三淵マネージャー、本部より河村代表の出席をいただきました。

開会后、東北六県の地域団体長より近況報告をいただき、在庫状況や地域団体活動などについてお話しいただきました。因みに私はこの近況報告を参考に地域活動をしています。

その後、自動車再資源化協力機構の三淵マネージャーより、資料に基づき、安全作業に関する情報についてお話しいただき、今回のお話を会員会社に広め、安全作業を再徹底することを決定しました。

河村代表からは、自動車リサイクル士制度などについてご報告いただき、その後は事前アンケートをもとに活発な議論がなされました。

(東北ブロック ブロック長 平地 健)

ELV機構・JTPがEVバスを解体

日本ELVリサイクル機構のトラック・バス部会と日本トラックリファインパーツ協会(JTP)は、環境省からの委託で、電気自動車(EV)のバスの解体を行いました。

解体作業は、以下のような流れで行われました。(写真参照)

《解体作業の流れ》

①電池取り外し準備 → ②電池ユニット取り外し → ③切断

今回は実証事業用の試作車でしたが、今後の電池処理のために大いに役立つ経験になったと思われます。



① 電池取り外し準備



② 電池ユニット取り外し



③ 切断

■ 3月第4週(28日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供 / 日刊市況通信社]

関東浜値、船送りが活発化し先行高に H2は29,000～29,500円中心

鉄スクラップ関東湾岸相場が、船送りの活発化を受けて上昇している。3月27日時点の1トあたりの関東浜(FAS価格)は、H2が29,000～29,500円中心、HS・新断の上級スクラップが33,000～33,500円中心。24日時点の価格からは各品種とも1,000円がた上昇した。船積み実施筋の一部では、必要量を確保するためにH2で30,000円付近、HSで34,000円付近の高値を提示する動きもある。

3月第4週(24～29日)の関東船送り予定数量は33,000トで、前週の56,000ト(速報)からは減少する予測だ。しかし、関東鉄源協同組合の共同入札分の船積みがこの週のうちに9,800トを実施するほか、これから4月中旬にかけて4万ト弱の配船を予定するなど、関東湾岸では今後も一定の約残消化が継続する見通しとなっている。

ただ、南関東では3月第3週から調整値上げの動きが広がっている。このため市中のディーラー筋は出荷を慎重に行っており、湾岸地区は「スクラップを確保しづらい状況」(シッパー筋)にある。また、関東域内相場が依然として輸出価格に対して割安となっていることもあり、湾岸商社・シッパー筋は価格を引き上げながら集荷を進めている。



【関東地区】南関東を中心に電炉実勢が上伸。湾岸浜値が電炉買値上回る

3月28日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	27,500 ~ 29,000	強含み
	南関東	27,500 ~ 29,000	強含み
名古屋		30,000 ~ 31,000	様子見
関西	大阪	30,500 ~ 31,500	様子見
	姫路	30,500 ~ 31,000	様子見

関東地区では、南関東電炉を中心に電炉買値は底値から反発したものの、一部電炉の事業撤退などで関東電炉の生産水準が伸び悩み、北関東電炉は依然様子見の姿勢のため、浜値が高値の東京製鉄宇都宮の買値を上回る水準となっている。関東相場は中部や関西に比べ安値に沈んでおり、安値是正に向けた動きが本格化しそうだ。H2炉前実勢価格は27,500～28,500円中心、高値29,000円見当。

【東海地区】需給双方ともに様子見気配で膠着気味

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、様子見横ばいで膠着気味となっている。ただ関東地区の浜値先行高などによる市況反転ムードから、名古屋地区も底値感が広がり始めている。ただ、即時に市況の反発へとつながる材料には欠けるとの見方が根強く、さらに月末環境のためスクラップ業者間に出荷の動きが見られることで、足元の需給関係に引締まり感は見られない。H2炉前実勢価格は30,000～30,500円中心、高値31,000円見当。

【関西地区】各ディーラーとも慎重見守り姿勢で様子見の展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は模様眺めが続いている。電炉筋による品種・時間制限買いの影響で販路は乏しいながらも、輸出価格の上昇や4月の荷動きに不明な点が多いことで、ディーラーは慎重様子見の姿勢を保っている。H2炉前実勢価格は30,500～31,000円、一部高値31,500円。姫路地区では、地区内の4月生産量3月比で約2万ト減となる見通しで、需要が縮小。H2炉前実勢価格は30,500～31,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月28日午前時点のもの)

行事予定

■4月の主な予定

4月11日(金)

・近畿ブロック会議

4月14日(月)

・第1回 広報部会

4月16日(水)

・第1回 資源循環委員会

4月17日(木)

・第1回 リサイクル技術部会

4月19日(土)

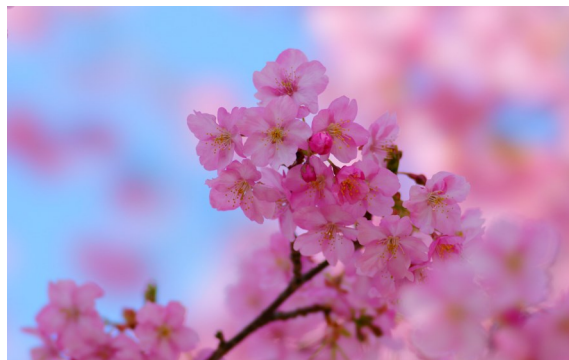
・九州ブロック会議

4月25日(金)

・第1回 常任役員会

4月26日(土)

・中国四国ブロック会議



お知らせ

■会員数(2014年3月現在)

会員=664社／賛助会員=28社

■環境省からのお知らせ

1. 中古車輸出として一時的に取り外しが認められる部品
中古車輸出として一時的に取り外しが認められる部品として
ライト類が追加されています。

▼参考ページ

<http://www.env.go.jp/recycle/car/pdfs/140117document.pdf>

2. 平成25年度除染技術実証事業

環境省では、平成25年度に環境省請負事業において、特に高線量が検出されやすいラジエーター及びコンデンサーを主な対象として、有機酸及び重曹ブラストを用いた除染技術の実証事業を実施してきたところであり、今般結果がとりまとまったので、共有します。

こうした部品で局所的に高線量が検出されることによって引取りに支障が生じている場合に、今後、本事業の技術を参考にして、自動車の処理を進めていただくようお願いいたします。

▼平成25年度除染技術実証事業の報告書

http://fukushimajaea.go.jp/initiatives/cat01/entry07_25.html

▼平成25年度除染技術実証事業の評価結果概要

http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=23949&hou_id=17787

▼平成26年度除染技術実証事業の対象技術の募集

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17787>

編集後記

年度末は我々の業界でもっとも多忙となる期間であります。特に今年度は消費税増税前ということもあり、相当の車両引取があるであろうと予想していたリサイクル業者も少なくないように思います。▲手前のことを申し上げれば、3月前半は思ったほど使用済自動車の入庫は伸びず、「今年はどうしたことか？」と少しばかり不安になりましたが、3月の後半あたりからようやくパタパタと動き始め、まずはほっと胸をなで下ろした次第です。▲「このようなことで一喜一憂するとは、なんとも情けない」と分かりつつも、我々はとかく状況が変わると心が反応してしまいます。▲「心」の語源は「ころころ」からきています。状況によってころころと右へ左へと移り変わる様から「心(こころ)」といったのだそうです。言い得て妙ではありませんか。▲新年度は消費税をはじめとする様々な制度も変わります。不安が脳裏を横切りますが、しかしながらどんな状況がきても明鏡止水のごとく、揺れない心を持つことができれば良い知恵も湧いてくるのではないかと思います。

(広報部会 部会長 永田 則男)